



休日OK ほかごOK 授業OK ちがくきょうどう通信

2024年
2月発行
第3号

こんにちは。令和5年度「ちがくきょうどう通信」第3号です！！いよいよ令和6年度よりコミュニティ・スクールの導入が始まります。当課においては「地域学校協働活動」の推進により、「学校と地域のつながりづくり」を後押しするなど、「活動」の側面からコミュニティ・スクール導入をサポートしていきます。是非、今後の参考にご覧ください！



「地域×授業」コーディネート



地域学校協働活動では、当日の活動のみならず、活動の実施に向けた各種調整についても学校と地域が協働して取り組んでいます。そこで今回は、地域と協働した教育活動を進めていくために、地域の皆さんの協力を得て実現した授業の取組をご紹介します。

※※幌北小学校地域学校協働活動推進運営協議会※※



2年生生活科の授業で行われた「幌北いいとこたんけん」は、子どもたちが自分たちの住むまちの良さに気付くために、校区内にあるお店や施設を回り、仕事の様子を観察し、インタビューを実施したものです。

子どもたち一人一人が自分事として主体的に活動に取り組めるよう、訪問先の店舗数をできるだけ増やし、少人数で活動できるよう工夫しました。

今回の取組を実現するに当たり、地域コーディネーターの方には、教員と連携し、子どもたちが訪問したい店舗を事前に調査するとともに、対象の店舗に対し、事前説明、訪問日時の調整、当日の対応や来年度に向けた課題検討など、幅広く担当していただきました。

結果、校区内16店舗もの施設を訪問することができ、子どもたちは2～4名の小グループに分かれて活動することができました。店舗の方も子どもたち一人一人に対して、丁寧に対応することができ、子どもたちが地域への愛着を深める機会にもつながりました。子どもたちが学校内外の大人たちの力を借りて、自ら主体的に学び、活動していくことは、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールが目指す方向性の一つです。

また、地域コーディネーターの方には、協働活動の推進に向け、「地域の方にこんなことをお願いしたい」という学校のニーズや、「子どもたちにこんな活動をしたい」という地域の方の思いを把握し、活動につなげてもらいました。普段、学校で取り組んでいることも、地域のことをよく理解し、把握している方が調整することで、更なる効果が期待できるかもしれません。





コミュニティ・スクール導入を控える中、各学校では地域との連携の在り方を見つめなおしているところだと思います。地域学校協働活動推進事業では、活動の視点から、地域とのつながりづくりを推進することを一つのテーマとして掲げています。そこで今回は、「スタートちがくきょうどう」と題して、主に事業未実施校の皆様向けに2つのトピックスをお届けします。

手稲中央小☆こども未来応援団の取組事例

同団体は今年度「地域の輪をつなぎ、子どもたちの成長や学びを支える活動を続ける」ことをスローガンに掲げ、学校と連携して地域コーディネーターが中心となり、この1年様々な活動に取り組んできました。その取組の一つに、CSを見据えて同団体で「熟議」を行い、「地域との関わりを深める活動は何か？」を皆さんで話し合いましたので、その概略をお伝えします。皆さんの地域でもヒントになる内容があるのではないのでしょうか？

【社会体験】

町内会が行なっている清掃活動や交通安全運動など、子どもたちを交えて行うことで、社会体験の場を拡げる。

【地域を知ってもらう】

地域の良さをたくさん子どもたちに知ってもらう機会を作り、町内会やまちづくりセンターと情報共有しながら、交通安全マップ・校区マップづくりや地域のイベント参加を図る。

【学校外活動の充実】

学校ではできない活動として、町内で行うイベントを活用。子どもたちに運動会等のイベントを創り上げる体験の場とする。

【地域の歴史】

地域が伝承する文化体験(餅つきや歴史体験)や、地域にある団体(手稲郷土史研究会や石の会)などを通じて、子どもたちに地域への愛着を図る。



活動をきっかけとした「学校と地域のつながりづくり」の推進

コロナ禍で、地域との関係が希薄化している今、活動をきっかけに地域とのつながりづくりを後押しするため、地域学校協働活動推進事業を柔軟に活用できるよう、令和6年度は「おためし地学協働」を実施します!!! 詳細は3月に御案内します。

「おためし地学協働」～小さくはじめて地域とつながろう

○1プログラムでも可(1時間から OK)

○年度途中の開始可

○地域との既存の活動を活用可

○地域人材はコーディネーターとして最低一人参加

全ての活動を新しくはじめる必要はありません。

- ・今取組んでいる活動、
- ・コロナ前まで取組んでいた活動、
- ・すでに学校とつながりを持つ地域の団体や人材、

まずは「できること」からはじめ、活動をきっかけに、徐々に地域のつながりを拡げてみてはいかがでしょうか。

